

科目名	科学的住生活特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	住生活に時間の概念や動線計画、機能分類等の科学的分析法が導入されたのは、戦後のことです。その主目的は、女性の家事労働軽減にありましたが、今日、家庭電化製品等により、家事に要する時間は大幅に短縮されました。一方、この戦後の大きな目的がごく短期間に達せられたために、住生活の科学的分析法は不十分のまま、という好ましくない結果をもたらしました。☒ これからの住生活は、住まいが社会における原点、という普遍性を踏まえ上で、医学や環境学、色彩学等のあらゆる学問と有機的に連携しながら向上させなければなりません。本講義は、住生活における科学的分析法の成り立ち、及び次代に要求される手法を学ぶことを目的とします。☒ レポートはコメントによるフィードバックを行います。			
達成目標	単位認定最低基準：「授業内容を7割理解し、住生活における科学的分析法の成り立ちの理解し、研究内容に適した分析手法を利用できるようになること」。			
受講資格	修士課程1年	成績評価 方法	レポート70%、プレゼンテーション30%	
教科書	適宜プリント及び資料配付			
参考書	「今和次郎と現考学」河出書房新社☒ 「ダ イニング キッチン は こうして 誕生 した」 技報堂出版			
学生への要望	新聞等のニュースから、現代の住生活及び住まいにおける問題点を考えて下さい。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20・14:30～16:00☒ 住居学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義のガイダンス	今後の講義の目的や内容について説明します。	授業内容について復習	60
2	住居論についての考察	わが国の戦後の住まいを方向付けた既往研究（今和次郎や西山卯三他）について、考察します。同時にこれらが、科学的検証に基づいて行われたものであることを確認します。	授業内容について復習	60
3	住まい計画における空間比	住宅のモジュールについて理解した上で、住まいにおける各室（各機能）がどのような構成（面積）比で成り立っているか、過去の論と照らしながら考えます。	授業内容について復習	60
4	空間分析	まず、空間分析の目的を学びます。次に、空間分析を行う場合、研究の視点をどこに置くか、視点の相違による分析方法の違いについて、事例を用いて考えます。さらに、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
5	空間分析の手法Ⅰ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
6	空間分析の手法Ⅱ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	授業内容について復習	60
7	空間分析の手法Ⅲ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。これらをデータとしてまとめ、レポートを作成します。	授業内容について復習	60
8	子ども室の在り方Ⅰ	戦後の住まいにおいて、最も力点が置かれた空間として子ども室があげられます。しかし、近年、幾つかの事件から問題点が指摘されています。本講義では、問題の根底を考えながら、年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面からその在り方を考察します。	授業内容について復習	60
9	子ども室の在り方Ⅱ	前講義に引き続き、子どもの年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面から子ども室の在り方を考察します。	授業内容について復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	夫婦室の在り方	戦後の住まいにおいて、力点が置かれた子ども室に比し、夫婦室は軽視されがちでした。本講義では、その重要性について考察します。また、住まいに対する意識は、男女によって著しく異なる、とされていますが、住宅設計及びジェンダーフリーの視点から、男女双方にとっての住まいの理想について考えます。	授業内容について復習	60
11	台所の行方	戦後の台所は食物調達のみ機能から、食事空間の一体化という発展を遂げてきましたが、近年は生活の変化から、両者（食物調達、食事）の機能とも消滅する傾向が報告されています。このことは、現在の生活のみならず人間生活の歴史において、大きな問題であるといえます。これらのことを踏まえて、今後の台所について考察します。	レポート準備	60
12	住宅調査におけるアンケート作成Ⅰ	住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
13	住宅調査におけるアンケート作成Ⅱ	前講義に引き続き、住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
14	住宅調査におけるアンケート集計	前講義で作成したアンケートの集計を通して、住宅調査における集計方法及び統計について学びます。	レポート準備	60
15	まとめ	これまでの講義を総括します。	レポート準備	60

<b>科目名</b>	実務実習Ⅰ（インターンシップ）	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 6単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建築設計事務所等において建築設計及び工事監理を体験しつつ一連の業務内容を理解し、これらの実務を建築士の指導下において実習することで、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。		
<b>達成目標</b>	建築設計及び工事管理について、一連の業務内容を理解していること。建築士の指導下で、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけていること。		
<b>受講資格</b>	人間生活学専攻修士課程	<b>成績評価 方法</b>	成績は、指定された実習報告書（実習内容とその成果や考察を記したもの）及び実習成果の報告会における発表内容と質疑応答によって総合的に評価する。なお、成績評価の配分は応用力40%、発想力・活用力60%とする。
<b>教科書</b>	必要な資料は適宜配布する。		
<b>参考書</b>	必要な書籍や指針などは適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	学生が建築士事務所に出向き、一級建築士の指導下において設計や工事監理に関わる業務の補助を行う。☑ 実習期間中に実習日報を適宜提出し、実習終了後に実習報告書を提出して実習成果の報告会をおこなうこと☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☑ 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画	<p>実習先にて一級建築士の指導下で建築設計と工事監理に関する実務訓練を行いつつ、その実務に必要な学習を行う。☑</p> <p>☑</p> <p>学修時間は実習先の事務所における勤務時間内にて、計240時間の実習を行い、実習報告書の作成と発表を含めて270時間とする。実習内容の時間配分は概ね次の通りとする。実習の時期は、1年次の夏季及び春季休業の期間に行うことを原則とするが、実習先の業務の都合等により変更できる。☑</p> <p>☑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画図面の作成実習（模型作成等を含む）：70～90時間☑</li> <li>・実習図面の作成実習（図面修正等を含む）：120～140時間☑</li> <li>・施工現場の工事監理実習：20～40時間 計230時間☑</li> <li>・実習報告書の作成と報告会：別途学内にて実施 総計240時間☑</li> </ul>	実習報告書等の作成	60

科目名	建築設計演習Ⅰ	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 4単位 選択
担当教員	佐久間 保一		
開講期	前期		
授業概要	住環境における安全と危険性を分析する。☑ 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
達成目標	住環境における安全と危険性を分析する。☑ 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
受講資格	大学院修士課程	成績評価 方法	課題の提出と出席状況による
教科書	人にやさしいまちづくり条例☑ 建築・都市のユニバーサルデザイン		
参考書			
学生への要望	建築環境におけるユニバーサルデザインの必要性を確認する。		
オフィスタイム			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1		授業ガイダンス、建築環境におけるユニバーサルデザインの現状。		0
2		住宅におけるバリアフリーと危険の予防。		0
3		住環境におけるシックハウスの予防と実際。		0
4		生活環境とユニバーサルデザイン		0
5		生活環境に求められる要素		0
6		バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ		0
7		多様な属性と環境		0
8		ユニバーサルデザインのプロセス		0
9		ユニバーサルデザインの手法		0
10		外部空間のユニバーサルデザイン		0
11		公共建築のユニバーサルデザイン		0
12		居住空間のユニバーサルデザイン		0
13		人にやさしい街づくり条例		0
14		①実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0
15		②実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0

<b>科目名</b>	生活環境特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 志保		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。☑</p> <p>この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。☑</p> <p>それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。☑</p> <p>対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。☑</p> <p>これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。☑</p> <p>この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。☑</p> <p>それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。☑</p> <p>対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。☑</p> <p>これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。</p>		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程の学生	<b>成績評価 方法</b>	授業における「気づき」「探究心」「説明力」とレポートによる最終試験☑ ①レポート100点
<b>教科書</b>	特になし。☑ ただし、資料や原著の活用		
<b>参考書</b>			
<b>学生への要望</b>	<p>人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患者などである。☑</p> <p>幼児教育・栄養士・福祉士等はこれら免疫弱者を対象とする職能である。いわば環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を科学的に理解しておく必要がある。☑</p> <p>環境因子や疾病については学生の希望を考慮する。☑</p>		
<b>オフィスタイム</b>	月から金 5コマ目 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。☑ テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各1つ設定する。☑ 授業計画を立てる。☑ 資料や原著を検討するために図書館を調査する。☑	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
2	テーマ(B)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ テーマに関する概要：歴史経緯、危害	引き続き興味のある問題について、書籍、文献調査を行う。	60
3	テーマ(B)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	興味のある問題について基礎知識をまとめ、講義で説明(発表)を行う。	60
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：病気の自然史など	興味のある問題について、最新の情報をまとめ、どんなことが問題なのかについて調べる。	60
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	興味のある問題について、その問題を調べるための方法を調べ考える。	60
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：生体の反応	興味のある問題について、実験を進めるための具体的手法をノートにまとめる。	60
7	テーマ(C)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ テーマに関する概要：歴史経緯、危害	興味のある問題について実際に実験を行った結果をまとめる。	60
8	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	実験結果を数値を解釈し、図表にまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：病気の自然史など	結果の数値の示す意味について考える。	60
10	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
11	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：生体の反応	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
12	生活環境中の危害因子の分析方法と曝露条件	仮説に基づいた病原因子と疾病で、危害因子の分析方法と曝露状況に関する報告を調べる。☒ 論文の要旨や実験データをまとめて、疾病の原因としての仮説を立てる。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
13	危害因子の感染経路と生体内挙動と排泄経路	危害因子の曝露条件だけでなく、感染経路、生体内挙動や排泄経路など疾病の症状を説明しているか調べる。☒ 罹患者の地域的分布などが危害因子の挙動に一致しているか検討する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
14	危害因子による発病機構	発病機構に関する報告を調査する。その発病機構を傷害すると疾病が抑制されるか検討した報告を調査する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
15	生活環境中の危害因子の除去方法	生活環境中の危害因子の除去する事によって、疾病が抑制されることを確認して、危害因子の環境中での閾値を調べる。その基準値が定められた場所で、その疾病の発生頻度が抑制されているか検討する。	発表終了後、プレゼンテーション内容について討論した点を修正しまとめなおす。	60

科目名	科学的食生活特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員	鎌野 信子			
開講期	前期			
授業概要	大学の4年間は、管理栄養士、栄養教諭などの資格取得のためのカリキュラムに従って、「食生活の周辺」を「学び、理解して、覚える」ことであった。大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解きながらディスカッションする。併せて、日本人の食生活の特徴的な事柄を「食べ物文化史（英語版）」で英文を購読する。【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。			
達成目標	各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により日本の食生活を海外に伝える力を養うことを目標とする。【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。			
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	①レポート80% ②英文講読20%	
教科書	①資料を配布する。			
参考書	必要に応じ授業内で案内する。			
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。☒ ②食文化などにも関心を持ってください。☒ ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。			
オフィスタイト	月曜日3時限および火曜日3時限のNo.1食品学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入：授業の目的	導入として、大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解き、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことを目標とすることを理解する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	論文購読①	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
3	論文購読②	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
4	「縄文時代」と「弥生・古墳・飛鳥時代」の食生活	「縄文時代」と「弥生・古墳・飛鳥時代」の食生活について、英文講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	論文購読③	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
6	「奈良時代」と「平安時代」の食生活	「奈良時代」と「平安時代」の食生活について、英文講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。☒	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
7	論文購読④	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
8	「鎌倉時代」と「室町・安土桃山時代」の食生活	「鎌倉時代」と「室町・安土桃山時代」の食生活について、英文講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
9	論文購読⑤	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	「江戸時代」と「明治・大正時代」の食生活	「江戸時代」と「明治・大正時代」の食生活について、英文講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	論文購読⑥	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	「昭和時代」の食生活	「昭和時代」の食生活について、英文講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	論文購読⑦	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文購読⑧	食の情報誌等に掲載の論文等について、最新情報を読み解き討論する。☒	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	まとめ	2回～14回までの内容について討論を行う。	予習：2回～14回までの授業内容について確認してきてください。☒ 復習：2回～14回までの授業内容について自分の考えを整理してください。	60

科目名	障害者福祉特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	村田 清		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。☑		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。☑		
受講資格	大学院1年生	成績評価 方法	学習態度・意欲（50）、レポート（50）など総合的に評価します。
教科書	特に使用しない☑		
参考書	国民の福祉と介護の動向		
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、問題意識をもって研究を深める。		
オフィスタイト	火曜日 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、障害者福祉の視点	授業についてオリエンテーション。☑ 現代社会と障がい者、障がい者親や障がい者と家族及び地域社会など、障がい者福祉の視点について学ぶ。☑		0
2	障害者福祉の歴史と新たな展開	諸外国や我が国の障がい者福祉のあゆみと、障がい者福祉の新たな展開について学習する。		0
3	障害者福祉の基本的理念	現代における障がい者福祉の基本理念について、ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョンなどさまざまな理論を通して学習する。		0
4	障害者福祉における支援の実践	障がい者支援の実践について、ソーシャルワークのさまざまなアプローチやエンパワメントの視点、ジェントルティーチングに基づく実践について学習する。		0
5	障碍の概念と定義	障がいの概念や定義、社会における障がい者の理解や受け止め方について、法的な定義や国際的な障がい分類を通して学習する。		0
6	障害者の生活ニーズや支援の視点	障がい者の様々な特性や生活ニーズを理解し、社会福祉の援助方法や理論、援助活動の実践について、学習する。		0
7	障害者福祉に関する法体系及び障害者施策	我が国の障がい者福祉の法体系やさまざまな障がい者施策及び実施期間について学習する。		0
8	障害者福祉のサービス体系	障がい者自立支援法の制定から障がい者総合支援法への改正など法体系の変遷と福祉サービスの内容について学習する。		0
9	障害者の生活保障	障がい者の生活を支える経済的な支援制度や雇用や教育の課題について学習する。		0
10	障害者福祉にかかわる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士等の専門職のソーシャルワークやケアワークの等の業務について学び、障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。		0
11	障害者ケアマネジメントとケアプラン	さまざまな障がい者のケアマネジメントにおける方法や展開過程を学び、障がい者の個別支援計画や援助の実践について理解を深める。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	障害者の社会参加と文化・スポーツ	障がい者の文化、スポーツや福祉レクリエーションへの参加や社会的活動の現状について理解する。		0
13	障害者の権利擁護	成年後見制度や日常生活支援事業、苦情解決制度、運営適正化委員会等、障がい者の権利を守る制度やシステムについて学ぶ。		0
14	障害者支援の事例研究	事例を通して障害者支援の実際を学ぶ。		0
15	まとめ	障害者福祉の課題と今後の方向についてまとめを行う。		0

<b>科目名</b>	臨床栄養学特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	大西 弘太郎			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	生活習慣病の成因・治療・予防について栄養学の立場から分析・理解する。とくに心血管疾患に重点をおく。☑ 国際誌に掲載されたインパクトの高い英語論文を輪読する。☑ ☑ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに輪読会を行う。☑ 実務経歴：医師として医療機関に勤務している。☑ ☑ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけでなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 GU1120			
<b>達成目標</b>	単位認定の最低基準：英語原著論文の大意を理解できるようになること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：			
<b>受講資格</b>	大学院修士課程1年	<b>成績評価 方法</b>	小テスト (20%)☑ レポート (80%)	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。			
<b>オフィスタイム</b>	臨床医学研究室 ☑ 火曜日 13:00～17:00。 ☑ 木曜日 15:00～17:00。 ☑ 金曜日 08:30～17:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	非感染性疾患とその予防	平均寿命と健康寿命☑ 人口動態の変遷☑ 非感染性疾患(NCD)の概念と位置づけ☑ 高血圧とその予防☑ 高血圧と栄養学	健康寿命、疾病構造、生活習慣病などについて予習・復習をしましょう。	120
2	英文講読 1	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T.☑ Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now?☑ Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
3	英文講読 2	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T.☑ Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now?☑ Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
4	英文講読 3	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T.☑ Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now?☑ Circ J. 2013;77:2226-31, Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
5	英文講読 4	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T.☑ Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now?☑ Circ J. 2013;77:2226-31, Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	英文講読 5	He FJ, Li J, Macgregor GA.☒ Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane☒ systematic review and meta-analysis of randomised trials.☒ BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
7	英文講読 6	He FJ, Li J, Macgregor GA.☒ Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane☒ systematic review and meta-analysis of randomised trials.☒ BMJ. 2013;346:f1325.☒	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
8	英文講読 7	He FJ, Li J, Macgregor GA.☒ Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane☒ systematic review and meta-analysis of randomised trials.☒ BMJ. 2013;346:f1325.☒	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
9	英文講読 8	He FJ, Li J, Macgregor GA.☒ Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane☒ systematic review and meta-analysis of randomised trials.☒ BMJ. 2013;346:f1325.☒	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
10	英文講読 9	Kanauchi M, Kanauchi K.☒ Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with☒ untreated hypertension.☒ BMJ Open. 2015;5:e008404.☒	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
11	英文講読 10	Kanauchi M, Kanauchi K.☒ Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with☒ untreated hypertension.☒ BMJ Open. 2015;5:e008404.☒	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	英文講読 1 1	Kanauchi M, Kanauchi K. ☒ Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with ☒ untreated hypertension. ☒ BMJ Open. 2015;5:e008404. ☒	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
13	英文講読 1 2	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
14	英文講読 1 3	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論 ☒ レポート提出	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

<b>科目名</b>	建築生産計画特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀井 勝典		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。☒ ☒</p> <p>2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。☒</p> <p>実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒</p> <p>実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計会社社長を務める。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。☒ ☒</p> <p>2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。</p>		
<b>受講資格</b>	修士課程1年生	<b>成績評価 方法</b>	授業20%、小テスト30%、小論文50%
<b>教科書</b>	図説建築施工入門、建築施工教科書		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	少数なのでとにかく頑張ること。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	着工準備	設計、契約、営業活動、各種書類手続き		0
2	着工準備	建設産業の構造、施工管理、近隣関係		0
3	着工準備	敷地の確認、現場事務所、着工、測量		0
4	土工事、基礎工事	地下工事、根切り、近隣対策		0
5	土工事、基礎工事	杭打工事（最近の新工法）		0
6	躯体工事	鉄筋工事（加工図、製作図、検査）		0
7	躯体工事	現場における建方、鉄筋工事の流れ		0
8	躯体工事	コンクリート工事（躯体図、加工図、検査）		0
9	躯体工事	建物の解体		0
10	躯体工事	建築の工業化、設計の実務		0
11	仕上工事	躯体工事から仕上工事への移行		0
12	仕上工事	防水工事（下地、養生）		0
13	仕上工事	内屋の仕上工事（床、壁、天井）、施工例紹介		0
14	仕上工事	外部の仕上工事（タイル、吹抜）、施工例紹介		0
15	まとめ	最終まとめ、設計事務所の役割		0

科目名	健康生活特論Ⅰ	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	紺野 信弘		
開講期	前期		
授業概要	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。[課題に対するフィードバックの方法] 講読した英文を和訳し提出させる。それによって英文の意味が定着する。		
達成目標	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。【単位認定方法と最低基準】出席を重視します。提出を求められた英文の翻訳レポートは必ず提出すること。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得		
受講資格	大学院修士課程の院生	成績評価 方法	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 <input checked="" type="checkbox"/> 合計100点満点
教科書	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。		
参考書	国民衛生の動向 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book <input checked="" type="checkbox"/> ISBN 978-0-7432-1774-3		
学生への要望	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。		
オフィスタイム	水曜日のVコマ目、木曜日のIVコマ目 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床生理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
2	成人の健康	生活習慣病とはなにか、またそのリスクと予防について考える。健康日本2 1と健康日本2 1（二次）について考える。	生活習慣病について考察する	60
3	疫学（1）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
4	疫学（2）	疫学の種類。疫学の利用	良く使われる疫学について調べる	60
5	保健統計（1）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
6	保健統計（2）	人口ピラミッド。合計特殊出生率。年齢調整死亡率。保健統計からみた少子高齢化。	わが国の合計特出生率について	60
7	保健統計（3）	疫学研究に必要な統計の基礎。統計ソフトIBM-SPSSについて。	統計ソフトIBM-SPSSの利用法の学習	60
8	保健統計（4）	SPSSの実際。SPSSを用いてデータの解析を行う。	SPSSをサンプルデータを用いて実際に使用してみる	60
9	高齢者の健康（1）	老化の概念。	老化の概念について考察する	60
10	高齢者の健康（2）	加齢による生体の生理的变化。健康と生活の質	加齢に伴う骨・筋の変化について学習する	60
11	女性の健康（1）	英文講読"Healthy women, healthy lives"米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに"健康"について考える	与えられた部分の和訳を行う	60
12	女性の健康（2）	上記テキストの中にある、「看護師の健康研究とは」について英文和訳をしながら学習する。	英文和訳の継続	60
13	女性の健康（3）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
14	健康生活と毒性学	化学物質の安全性。毒性物質の体内動態。農薬の毒性について理解を深める。	量反応関係について理解を深める	60
15	総括講義	これまでの講義をまとめ"健康"について理解を深める。	これまでの講義を参考にして、もう一度「健康」について振り返り考察する	60

<b>科目名</b>	哲学的人間学特論 I	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	関川 悦雄		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	哲学的人間学 (Philosophische Anthropologie) は、人間存在・人間のあり方を全体的に、総合的にとらえ直そうとする学問領域である。家政学 (人間生活学) 研究を目指す院生の皆さんにとっても、自らの学問の基盤にこの研究領域は不可欠である。従って、本授業のねらいは、ボルノーやその他の思想家の哲学的人間学を研究素材として、家政学の哲学的基盤を問うという点にある。関連文献を購読することによって、院生の皆さんが大学院レベルの読解能力や思考力を習得できるようにしたい。		
<b>達成目標</b>	1 ボルノー・プレスナー・フロムらの考え・思想のまとめを通して、哲学的人間学の内容を理解することができること。☑ 2 家政学は究極的に人間の存在を根源的に問うというところにまで深化することは可能かを理解すること。☑ 3 講読のしかたや論文の書き方・作成方法や引用のしかたなどを習得できること。☑ 単位認定の最低基準は、これら三項目の 8 割程度理解し、活用できることである。		
<b>受講資格</b>	上記修士課程の院生 1 年	<b>成績評価 方法</b>	少人数での文献講読。担当の院生が自ら作成したレジュメにしたがって発表し、討議を行うことで、理解・思索を深めていく。発表者以外の院生も予習が必須である。さもないと討議が成立しないでしょう。評価はふだんの調べ・レジュメ作成・発表・討議などで60点とし、他に学期末にレポートで40点として、合計100点とする。出席点は成績評価には含めない。
<b>教科書</b>	ボルノウ・プレスナー著/藤田健治他訳『現代の哲学的人間学』（白水叢書4、白水社、1976年、2002・2005年復刻版もあり）。ボルノー著/森田孝・大塚恵一訳編『問いへの教育—哲学的人間学の道—』（川島書店、1978年、再版もあり）。いずれの著書も学内の図書館にある。		
<b>参考書</b>	関川悦雄『ブーバー教育論の研究—教師と子どもの教育関係—』（風間書房、2016年）。教育思想史学会編『教育思想事典』増補改訂版（勁草書房、2017年）（旧版でもよい）。		
<b>学生への要望</b>	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。		
<b>オフィスタイトム</b>	水曜Ⅲ限 (12:50~14:20) ; 木曜Ⅳ限 (14:30~16:00) で、関川研究室 (図書館3階)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方や講読のしかた、成績評価の付け方、討議の仕方などを説明する。少人数の受講者なので、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとる。テーマや講読の箇所は、院生の皆さんと相談の上決定する。そのため、次回以降の項目は単に「講読」で表示する。	予習・復習；レジュメ作成・ノート整理	60
2	講読（1）	哲学的人間学に関する見方・定義。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
3	講読（2）	ボルノウの思想	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
4	講読（3）	プレスナーの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
5	講読（4）	フロムの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
6	講読（5）	ゲーレンの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
7	講読（6）	ポルトマンの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
8	講読（7）	ヘングステンベルクの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
9	講読（8）	アールの思想。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
10	講読（9）	教育的人間学。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
11	講読（10）	生命への畏敬。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
12	講読（11）	真理とは何か。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
13	講読（12）	家屋の人間学的機能。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
14	講読（13）	問うことへの教育。	予習・復習；レジュメ作成やノート整理	60
15	授業のまとめ	人間存在をトータルに把握できたかを確認し、それについて論述する。	予習・復習；レジュメとノートの整理	60

科目名	家政学原論Ⅰ		対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	安田 純子, 影山 彌			
開講期	前期			
授業概要	家政学原論のねらいは、家政学とはどういう学問であるかを解明することにあります。すなわち、家政学という学問の理念、目的、対象、方法、独自性などを考察し、家政学の学問としての要件を明らかにすることです。この問題に関連して、ヨーロッパにおける学問の動向、現代科学の特色などを予備的に理解し、本学の家政哲学、本学の家政学のパラダイムはどういうものかの理解を通して、家政学の学問としてのあり方を探究します。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
達成目標	本学の家政哲学を深く理解し、家政哲学に基づき、本学家政学のパラダイムを理解できること。☒ ☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
受講資格	大学院（修士課程）	成績評価 方法	発言力（20%）、レポート（80%）	
教科書	随時、紹介します。			
参考書	関口富左編著『家政哲学』家政教育社☒ o.F.ボルノー、大塚恵一他訳『人間と空間』せりか書房☒ G. バシュラール、岩村行雄訳『空間の詩学』思潮社☒ 関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社			
学生への要望	参考文献を事前に読むことに努めること。			
オフィスタイト	金曜日を除く昼休み（12：00～12：50）☒ 創学館4階N0.1研究室☒ （*影山先生一授業終了後、創学館4階N0.2研究室）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ヨーロッパにおける学問の意味について	ヨーロッパにおける学問の歴史は、古代ギリシア、ローマや12世紀ルネッサンスに遡ることができるが、17世紀、☒自然を中心として知る、認識するという学問が科学であるという考えが明確になったことを理解する。	講義資料について復習する。	60
2	新たな科学の誕生	19世紀、イギリスを中心として数学や物理学の科学者集団が誕生し、個別科学が誕生し、発展したことを解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	新たな科学の特色	新たな科学の特色と科学者の価値意識について講ずる。	講義資料について予習・復習する。	60
4	現代科学への警告（1）	朝永振一郎・ノーベル物理学賞受賞者、多田富雄・国際免疫学会会長、吉川弘之・日本学術会議元会長、などによる現代科学に対する警告と提言を解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	現代科学への警告（2）	村上陽一郎・国際基督教大学教授による現代科学に対する警鐘を解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	G.バシュラールの家の人間学的意味について	本学家政哲学の哲学的ベースの一つである、G.バシュラールの提起する家の人間学的意味について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味について	本学家政哲学の直接的な哲学的ベースである、O.F.ボルノーの「住むこと」の人間学的意味について、講演「人間とその家」を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味について	「住むこと」の人間学的意味について、O.F.ボルノー著『人間と空間』を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
9	「家政哲学」の確立	関口富左故名誉学園長先生がO.F.ボルノーの哲学を家政学において独自に展開し、家政学の理念として「人間守護」概念を提示したことの経緯について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	家政哲学の内容（1）	関口富左故名誉学園長先生が構築した「家政哲学」の内容について、関口富左教授編著『家政哲学』（家政教育社）を通して説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
11	家政哲学の内容（2）	「家政哲学」の内容について、『家政哲学』を通して説明する。	講義資料について予習・復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	「家政哲学」に基づく本学家政学のパラダイムについて	「家政哲学」と本学家政学のパラダイムとの関係について説明し、パラダイムの全体像を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	本学家政学のパラダイムについて	本学家政学のパラダイムにおける、特に研究方法—無記性的研究方法、使用価値的研究方法、人間価値創出的研究方法—の重要性について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	本学家政学のパラダイムの意義について	本学家政学のパラダイムが、家政学のみならず学問一般にとっても不可欠な学問研究におけるパラダイムであることを論証する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	総まとめ	本学の「家政哲学」及び本学家政学のパラダイムに基づく、「人間守護」を理念とした学問研究を推進することが今後ますます重要であることを確認する。	講義資料について予習・復習する。	60

科目名	生活文化史特論Ⅱ		対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	前期			
授業概要	大学院生として各自の専門研究領域を客観的に位置づけられる視野を持つために、歴史学・文化史の立場から現代的・社会的問題の所在を考える。ヨーロッパ文化（欧米文化）を例に院生各自の研究に対応した課題を取り上げながら、文化の形成・変容・継承の問題を考える。近代文明が多数の地域文化の融合の上にヨーロッパ文化を共通要素として形成されていることに着目し、その問題点を考えると共に、私たちの未来に関わる諸問題を検討する機会を作りたい。 講読時の討論や課題に対してコメントや修正点の提示を行うことでフィードバックする。			
達成目標	問題を見つける姿勢・討論する力・調べる方法と技術などを身に着ける。			
受講資格	本学大学院生	成績評価方法	授業時の討論（50%）と小課題（50%）	
教科書	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」（関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社 1999年）264～276頁			
参考書	授業時に適宜紹介する。			
学生への要望	①自分自身の研究テーマをきちんと説明できる姿勢をもつこと。☑ ②新聞やニュースを見る日常生活の姿勢をもつこと。☑ ③議論に積極的に参加する主体性をもつこと。			
オフィスタイム	火曜1時限目（8:50～10:20）・金曜V時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	参加院生の研究テーマを確認し、授業の進め方を検討する。	異文化理解のための議論を展開するためのウォーミングアップをする。	60
2	講読1-①	村田哲朗「文化の多様性」をテキストに、文化と文明について討論する。	日本人が考える「文化」「文明」の考え方を理解する。	60
3	講読1-②	村田哲朗「文化の多様性」を踏まえて、各自の研究との関連テーマで討論を実施する。	文化の多様性とは、価値観の多様化を意味することを理解する。	60
4	講読2-①	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」をテキストに通読し、問題点の洗い出しを行う。	日本人として西洋文化・文明に対する自分の考えを整理する。	60
5	講読2-②	第1章「欧米文化の歴史的役割」を手掛かりに、日本人にとってのヨーロッパについて考える。	近代化の歴史と西洋文化・文明の不可分な関係を理解し、歴史を見る立ち位置を考える。	60
6	講読2-③	第2章「中世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、中世ヨーロッパの貴族の誕生について考える。	高校世界史の基礎知識を確認しておく。	60
7	講読2-④	中世の理想像である「騎士」と騎士道について考える。	イメージとしての騎士と中世の実像を区別し、理解する。	60
8	講読2-⑤	貴族の彫像、とりわけ横臥像を例に、中世貴族の死生観や家門意識について考える。	ヨーロッパ観光で訪れることの多い教会の重要な構成要素として貴族の彫像を考える。	60
9	講読2-⑥	西洋料理が成立する以前の中世の食事について考える。	大航海時代以前の中世ヨーロッパの食文化をイメージしてみる。	60
10	講読2-⑦	「宮廷風恋愛」として知られる中世の恋愛について考える。	レディ・ファーストとされる西洋文化の異なる側面と構造的特徴を理解する。	60
11	講読2-⑧	第3章「近世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、ヨーロッパの文明化の問題を考える。	中世後期から近代化という概念が意味する文化の変容を理解する。	60
12	講読2-⑨	啓蒙主義と近世の貴族の問題を考える。	人間が平等であるという考え方は何故成り立つのかを考えてみる。	0
13	講読2-⑩	近世の「家政学」について考える。	現在の家政学とは異なる前近代ヨーロッパにおける家政学の概念を理解する。	60
14	講読2-⑪	第4章「国際化と異文化理解のための視点」を手掛かりに、近代における異文化理解について考える。	文化融合と文明化の意味を考え、この理解が時として差別や対立を生んできたことを理解する。	60
15	まとめ	半期の講義をまとめ、各自の研究テーマとの関係から異文化理解について検討する。	自分の研究テーマの社会的価値や他者から見た時の問題を話し合う。	60

令和3年度

科目名	栄養教育特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員	瀬戸 美江			
開講期	前期			
授業概要	栄養教育に関する論文作成の方法論を修得する。			
達成目標	栄養教育に関する論文作成の方法論を理解できるようになる。			
受講資格	修士課程1年生	成績評価 方法	平常点：60点☑	論文：40点
教科書	必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	積極的に授業に臨むこと。			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明		0
2	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	研究テーマについて考える。		0
3	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。		0
4	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。		0
5	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	調査方法を学ぶ。		0
6	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査表を作成する。		0
7	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査を行う。		0
8	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査結果の集計を行う。		0
9	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理について学ぶ。		0
10	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理を行う。		0
11	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。		0
12	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。		0
13	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーションの方法について学ぶ。		0
14	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーション		0
15	まとめ	まとめ		0

<b>科目名</b>	科学的衣生活特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	瀬谷 真理子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>快適な衣生活を営んでいくために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、豊かな衣生活とはどのようなものか理解する。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養う。生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えることは、SDGsの目指す方向と重なるものがあり、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え、実践していく力を養う。また、福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。</p> <p>実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得☑</p> <p>位置づけ・水準 ☑ ☑</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1. 被服の持つ機能・役割について理解し、快適な衣生活とはどうあるべきか考えることができる。☑</p> <p>2. 被服材料の性質について理解し、手入れや保管について理解できる。</p> <p>3. 豊かな衣生活を営むためのあり方について、科学的な視点で考え理解を深めることができる。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的な評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：</p>		
<b>受講資格</b>	上記対象学生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート・ノート/授業態度：30点%、②期末レポート：20%、③小テスト：50% として①から③の総合評価で60%以上を合格とする。
<b>教科書</b>	「消費者の視点からの衣生活概論」菅井清美・諸岡晴美 編著 井上書院		
<b>参考書</b>	「ビジュアル衣生活論」建帛社、「衣生活概論」矢部章彦ほか		
<b>学生への要望</b>	衣生活における現状と課題を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
<b>オフィスタイム</b>	被服学研究室☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①本講義の概要や目標、進め方や評価方法などについて説明する。 ②講義の事前学習や事後学習の必要性を説明する。	本日の授業内容をまとめ、問題点をピックアップする。	60
2	被服着用品目的と被服の機能～衣生活文化の変遷～	被服の着用品目的と機能は、時代、社会、文化の変遷に伴いながら変化する。被服の起源や被服の着用品目的の変遷を学び、現在の衣生活について問題点を抽出する。特に、被服着用の主要な3つの目的（①生理物理的、②心理的、③社会的）を文化的変化、価値観・意識の変化の視点から考察し、今後の衣生活を展望する。	本日の講義の復習をする。自分自身の衣生活における問題点を抽出し、次回発表の準備をする。	60
3	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と特徴を、被服に必要な機能との関連で理解を深める。さらに、年々進歩している新機能素材の例や素材の染色と加工について、映像や実物を観察しながら理解を深める。	本日の講義の復習をする。また、自分自身の被服の素材を確認し、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
4	被服の選択・購入の現状と課題（市場調査）	被服を選択・購入する際に参考とする被服の表示（素材、取扱い絵表示、サイズ、デメリット表示など）についてその種類を調べ、生活者視点での問題点（わかりやすさや見やすさ、など）と課題を考える。また、市場調査を実施して理解を深める。	本日の講義の復習をする。また、市場調査の結果をレポートにまとめる。	60
5	被服の着用による問題点と課題	被服の着用方法の変化、被服着用による汚れの種類と付着メカニズムを科学的に理解する。	本日の講義の復習をする。また、自分自身の着用時の問題点をピックアップし、レポートにまとめる。	60
6	被服の管理・手入れ方法（市場調査）	被服に付着した汚れの除去方法について、素材・形、染色などの被洗物の特徴に応じた適切な方法を理解する。家庭およびクリーニング店での汚れの除去方法の特徴と違いや家庭洗濯に用いられる市販洗剤の種類と特徴、使用方法、表示の見方などを調べ、生活者視点から問題点を抽出する。また、市場調査を実施して理解を深める。	本日の講義を復習する。自宅にある洗剤類や洗濯機の種類を調査確認する。また、市場調査の結果をレポートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	被服の保管の問題点と課題 (市場調査)	現在の被服の保管実態を調査し、問題点・課題を抽出する。市販されている防虫剤の種類と特徴を把握し、現時点での望ましい保管方法をまとめる。 また、市場調査で実際の商品を見て理解を深める。	本日の講義を復習する。また、自分自身の衣服の保管実態を把握する。	90
8	暮らしの中の衣生活①	被服の選択・購入、着用、手入れ・保管、廃棄という被服のライフサイクルにおいて、エネルギーと資源の消費（インプット）、炭酸ガスや廃棄物の排出（アウトプット）を評価するライフサイクルアセスメント（LCA）の考え方に基づいて、衣生活における環境負荷を考察する。	本日の講義を復習する。また、自分自身の衣生活をLCA的に見た場合の問題点を考察する。	60
9	暮らしの中の衣生活②	衣生活を営むことに伴う地球環境負荷影響を理解し、より環境負荷低減をめざした生活とはどのような生活であるかを考察する。	本日の講義を復習する。次回のテーマとする自分自身の被服の実態調査を行う。	120
10	暮らしの中の衣生活③	被服の死蔵（1年間着用していない状態）実態調査や被服の廃棄実態調査結果を参考として、環境に配慮した衣生活を5R（Reduction, Reuse, Recycle, Repair, Remake）の視点から考察するとともに今後の課題を抽出する。	本日の講義を復習する。自分自身の衣生活実態の問題点をピックアップし、よりよい方法を考え、レポートにまとめる。	60
11	SDGsの視点からの衣生活	SDGsについて理解し、衣生活において必要とされる水資源（植物繊維の成長、染色、洗濯水）について、地球上での循環、汚濁と規制、使用実態、上水・下水処理場の役割、などを調査し、理解を深める。	本日の講義を復習する。SDGsの視点でレポート作成を行う。	60
12	事例研究①	被服の事例として、取り上げる現代的課題について、その機能について学び、生活者の視点で、環境負荷低減の視点から考察する。	本日の講義を復習する。レポート作成を行う。	60
13	事例研究②	衣生活環境を中心とした現代的課題について、その発生原因と対策、問題点について考察する。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義を復習する。期末レポート対応を実施する。	120
14	これからの衣生活	衣生活における安全と安心の考え方を学び、現在の衣生活における課題とその解決方法を考える。	本日の講義を復習する。期末レポート対応を実施する。	120
15	まとめ	衣生活を巡る問題は、衣生活に限らず生活全般に共通する問題であること、生活者の視点での考察が重要であることを理解する。	本日の講義を復習する。	60

令和3年度

科目名	建築計画特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員	山形 敏明		
開講期	前期		
授業概要	建築分野における各種団体の業務や役割について学び、広く建築界の仕組みを知る。また、プロポーザルやコンペティションの事例研究を通して、そのプロセスや社会的意義、コンセプトの立案手法、プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。レポートを添削・返却し、コメントによるフィードバックを行います。		
達成目標	単位認定の最低基準：「当講義内容の8割を理解していること」、「建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること」		
受講資格	修士1年	成績評価 方法	レポート70%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	今日の建築界の仕組みを把握するために、建設関連の新聞記事等に親しむこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☒ 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス、建築分野における諸団体の概要について解説する。	授業内容を復習	45
2	建築士の責務	建築士の責務及び、日本建築士会の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。	授業内容を復習	45
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
5	建設業協会について	建設業協会、福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。	レポート準備	60
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務、及び活躍事例について講義する。	授業内容を復習	45
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。	授業内容を復習	45
8	入札制度について	プロポーザルやコンペティションのプロセスについて講義する。	授業内容を復習	45
9	コンペティションについて	コンペティションの事例を紹介し理解を深める。	レポート準備	60
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。	授業内容を復習	45
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペティションにおいて建設された建築の事例研究を行う。	授業内容を復習	45
12	問題点について	プロポーザルやコンペティションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。	授業内容を復習	45
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。	授業内容を復習	45
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペティションにおける表現テクニックについて研究する。	レポート準備	60
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。	レポート準備	60

<b>科目名</b>	建築設計演習Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	藤田 延幸		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	建築設計演習Ⅰに引き続き、鉄筋コンクリート造や鋼構造、混構造の設計を、現代において必要とされる建築をテーマとして社会問題とリンクさせながら設計する。さらに、設計事務所等業務の一環であり、建築的思考およびその表現の効果的かつ集中的に実践できる建築コンペティションへの参加可能な作品制作をすることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係わる大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。☒		
<b>達成目標</b>	高いレベルで自らの建築作品のコンセプト、計画の方法、その表現がなされていること。☒ 優秀案選出を目指してコンペに応募することを目標とする。		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程	<b>成績評価 方法</b>	作品成果発表（コンセプト内容、計画方法の法的適正、斬新さ、表現の明解性、美しさ）で評価する。☒ 評価項目は、知識力30%、応用力・問題解決力70%とする。
<b>教科書</b>	特に使用しない。		
<b>参考書</b>	課題説明時に適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	実践的な知識と技術を持って、現実的な作品成果を目指すこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室☒ 月曜日授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、「ショッピングセンター」課題説明☒	授業ガイダンス、「ショッピングセンター」課題説明☒		0
2	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー		0
3	エスキスチェック	エスキスチェック		0
4	エスキスチェック	エスキスチェック		0
5	図面、模型作成	図面、模型作成		0
6	図面、模型作成	図面、模型作成		0
7	図面、模型作成	図面、模型作成		0
8	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出		0
9	「劇場」課題説明、資料収集	「劇場」課題説明、資料収集		0
10	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー		0
11	エスキスチェック	エスキスチェック		0
12	エスキスチェック	エスキスチェック		0
13	図面、模型作成	図面、模型作成		0
14	図面、模型作成	図面、模型作成		0
15	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出		0

科目名	科学的食生活実験	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択	
担当教員	會田 久仁子			
開講期	前期			
授業概要	食物と人間生活の関わりについて、実験を通じて科学的に検討するための手法を学ぶ。なお、実験に当たっては既存の手法に捉われることなく、俯瞰的に日常生活から食に関わる問題点を抽出することで、新しい手法への導き方をディスカッションしながら考えることを目的とする。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。			
達成目標	担当者がこれまで関わってきた各種研究や、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより、実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことを目標とする。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。			
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	①レポート80% ☒ ②英文講読20%	
教科書	資料を配布する。			
参考書	必要に応じ授業内で案内する。			
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。			
オフィスタイム	月曜日3時限および火曜日3時限のNo.1食品学研究室。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	伝統食品の科学的検討③☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
6	伝統食品の科学的検討③☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：6回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
7	伝統食品の科学的検討④☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：7回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
8	伝統食品の科学的検討④☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：8回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
9	伝統食品の科学的検討⑤☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：9回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
10	伝統食品の科学的検討⑥☒	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：10回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
11	食物と人間生活の関わりを科学的に検討①☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：11回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
12	食物と人間生活の関わりを科学的に検討①☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：12回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
13	食物と人間生活の関わりを科学的に検討②☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：テキストを見て事前学習をしてください。 ☒	30
14	食物と人間生活の関わりを科学的に検討②☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：13回目、14回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討③☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：15回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
16	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討③☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：16回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
17	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討④☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：17回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
18	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討④☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：18回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
19	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討⑤☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：19回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
20	食物と人間生活の関わりの中の科学的検討⑤☒	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：20回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
21	食生活に関する最新情報の科学的検討①☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習21回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
22	食生活に関する最新情報の科学的検討①☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	復習：22回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
23	食生活に関する最新情報の科学的検討②☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：23回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
24	食生活に関する最新情報の科学的検討②☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	復習：24回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
25	食生活に関する最新情報の科学的検討③☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：25回目の授業内容についてノート整理をしてください。	45
26	食生活に関する最新情報の科学的検討③☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。☒	復習：26回目の授業内容についてレポートを作成してください。	45
27	食生活に関する最新情報の科学的検討④☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	予習：テキストを見て事前学習をしてください。	30
28	食生活に関する最新情報の科学的検討④☒	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	復習：27回目、28回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60
29	授業のまとめ	この授業を通して、俯瞰的に日常生活から食に関わる問題点について、実験を計画して進める方法、および実験結果から考察に導くまでのプロセスを学ぶことで、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことができたかどうか確認する。 ☒	予習：これまでの授業を振り返ってきてください。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	授業のまとめ	この授業を通して、俯瞰的に日常生活から食に関わる問題点について、実験を計画して進める方法、および実験結果から考察に導くまでのプロセスを学ぶことで、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことができたかどうか確認する。 ☒	予習：これまでの授業を振り返ってきてください。	30

科目名	調理科学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員	鎌野 信子		
開講期	前期		
授業概要	<p>「調理科学」は、食の分野を多角的に体系化を図る学問である。食品を選択する行為には、加工や調理に加えて、人間の心理や生理、生活や嗜好、その他多くの背景と動機があり、目的にあった確かな食品選択が求められている。ここでは、「調理科学」の中でも心理的要因が問われる「おいしさの科学」について論文や事例により読み解きながらディスカッションする。併せて、授業開始時（毎回10～15分程度）に食物や栄養についての英文を購読する。【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。</p>		
達成目標	<p>官能評価の事例を読み解くことにより、科学的側面から「おいしさ」について「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により食物や栄養について外交人との「コミュニケーションツール」として活用できることを目標とする。【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。</p>		
受講資格	大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻生	成績評価 方法	英文購読（20点）とレポート（80点）で100点とします。
教科書	<p>「調理と食品の官能評価」：松本伸子、建帛社☒ 「PRACTICAL ENGLISH FOR DIETITIANS REVISED EDITION」：小川成子、山本厚子、LAURA NIHAN、学研書院(1,188円+税8%) ☒</p>		
参考書	必要に応じて授業内で案内する。		
学生への要望	<p>①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。☒ ②食べ物を五感で味わう習慣をつけてください。☒ ③食品表示、食器、食空間、食文化などにも関心を持ってください。</p>		
オフィスタイト	月曜日3時限および火曜日3時限のNo.1食品学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的	食の業務に携わるためには、種々の食品についての深い知識と、食品の品質を見抜く技能が必要とされる。食品の評価法には、化学的、物理的評価法はもちろんのこと、官能的な評価法があることをまず理解する。「調理科学特論」では、調理や加工に留まることなく、食品の生産、流通、消費のシステムの中で、食品の品質を評価するためのいくつかの方法を解説する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	事例①：高齢者向けの商品開発と官能評価	高齢者向けの食品開発に当たっては、高齢者の摂食機能を考慮する必要がある。ここでは、口腔の形態と食塊の移動のメカニズムを確認し、高齢者の摂食中の問題点、唾液の性状および食肉の硬さと咀嚼の関係から若年者と高齢者の違いを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
3	事例②：コンビニ等向けの商品開発と官能評価	コンビニおよびチェーンストアの店頭に並ぶ弁当、おにぎり、惣菜などは2000種類にも及ぶといわれている。他社との差別化を図った多くの新商品を生み出すために、官能評価は不可欠な手法であることを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
4	事例③：飲料を評価する「のどごし感」の測定方法と官能検査☒	「のどごし感」は、ビール類の嗜好性と高い相関があるといわれている。ここでは、咽頭部表面筋電図周波数解析を用いた「のどごし感」の測定方法の概要を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	事例④：「味の素」の商品開発と官能評価	「味の素」は日本人が発見した「うま味」によって、この100年間マーケットを世界中の100か国以上に広められ、グローバルな商品となった。官能評価の手法をいち早く実践して商品開発を行ってきた味の素株式会社のたゆまぬ努力を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
6	論文購読①	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
7	英文購読①	食物や栄養に関する英文購読をする。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	論文購読②	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
9	英文購読②	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	論文購読③	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
11	英文購読③	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	論文購読④	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	英文購読④	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文購読⑤	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。☒ 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	授業の総括	2回から14回の授業内容について討論を行う。	予習：1回目から14回目までの授業内容を確認してください。☒ 復習：1回目から15回目までの授業内容について自分の考えを整理してください。	60

<b>科目名</b>	科学的住生活実験	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	本授業は、科学的住生活特論および科学的住生活実験で習得した住生活における科学的な分析方法を用い、住生活に関する各種実験・実習を行うことで実証的に住生活を理解する授業です。☑ 自身が考える快適な住生活や居心地の良い住まいはどのようなものかを明確にし、住まいに対する利用者の心情を科学的に数値化し、解決する方策を実験を通して学修します。☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、各種実験課題については、授業内で解説して返却します。		
<b>達成目標</b>	①実験の準備や結果の考察をまとめることができたか。☑ ②安全に実験を行うことが出来たか。☑ ③快適な住生活や居心地の良い住まいを数値化できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。		
<b>受講資格</b>	修士課程2年	<b>成績評価 方法</b>	①各種実験・実習に関するレポート（80%）☑ ②実験ノートの最終提出物（20%）
<b>教科書</b>	特になし☑ 必要に応じてプリントを配布		
<b>参考書</b>	必要に応じてプリントを配布		
<b>学生への要望</b>	安全に実験を行い、レポートを必ず期日までに提出すること。☑ 自身の住生活に関する不満や問題点を把握し、それらを改善するための方策を考えること。		
<b>オフィスタイトム</b>	月曜日8:50～10:20☑ 木曜日8:50～10:20☑ 本館1F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の目的や実験・実習の概要について学びます。	授業内容の復習	60
2	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
3	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
4	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学内の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
5	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
6	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
7	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
8	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
9	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
10	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
11	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
12	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
13	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
14	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
15	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
16	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
17	【実験3】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
18	【実験3】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
20	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
21	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
22	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
23	【実験4】室内照度調査	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験シートの作成	60
24	【実験4】室内照度調査	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
25	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
26	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
27	【実験4】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
28	【実験4】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
29	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120
30	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120

<b>科目名</b>	生活環境実験	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 志保		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。☑</p> <p>この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。☑</p> <p>それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。☑</p> <p>対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。☑</p> <p>これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。☑</p> <p>この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。☑</p> <p>それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。☑</p> <p>対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。☑</p> <p>これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。</p>		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程の学生	<b>成績評価 方法</b>	授業における「気づき」「探究心」「説明力」とレポートによる最終試験☑ ①レポート100点
<b>教科書</b>	特になし。☑ ただし、資料や原著の活用		
<b>参考書</b>	特になし。☑ ただし、資料や原著の活用		
<b>学生への要望</b>	<p>人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患者などである。☑</p> <p>幼児教育・栄養士・福祉士等はこれら免疫弱者を対象とする職能である。いわば環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を科学的に理解しておく必要がある。☑</p> <p>環境因子や疾病については学生の希望を考慮する。☑</p>		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日から金曜日の5コマ目、食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。☑ テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各1つ設定する。☑ 授業計画を立てる。☑ 資料や原著を検討するために図書館を調査する。☑	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
2	テーマ(B)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ テーマに関する概要：歴史経緯、危害	引き続き興味のある問題について、書籍、文献調査を行う。	60
3	テーマ(B)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	興味のある問題について基礎知識をまとめ、講義で説明（発表）を行う。	60
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：病気の自然史など	興味のある問題について、最新の情報をまとめ、どんなことが問題なのかについて調べる。	60
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	興味のある問題について、その問題を調べるための方法を調べ考える。	60
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：生体の反応	興味のある問題について、実験を進めるための具体的手法をノートにまとめる。	60
7	テーマ(C)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ テーマに関する概要：歴史経緯、危害	興味のある問題について実際に実験を行った結果をまとめる。	60
8	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☑ 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	実験結果を数値を解釈し、図表にまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：病気の自然史など	結果の数値の示す意味について考える。	60
10	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
11	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。☒ 病原因子に関する概要：生体の反応	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
12	生活環境中の危害因子の分析方法と曝露条件	仮説に基づいた病原因子と疾病で、危害因子の分析方法と曝露状況に関する報告を調べる。☒ 論文の要旨や実験データをまとめて、疾病の原因としての仮説を立てる。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
13	危害因子の感染経路と生体内挙動と排泄経路	危害因子の曝露条件だけでなく、感染経路、生体内挙動や排泄経路など疾病の症状を説明しているか調べる。☒ 罹患者の地域的分布などが危害因子の挙動に一致しているか検討する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
14	危害因子による発病機構	発病機構に関する報告を調査する。その発病機構を傷害すると疾病が抑制されるか検討した報告を調査する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
15	生活環境中の危害因子の除去方法	生活環境中の危害因子の除去する事によって、疾病が抑制されることを確認して、危害因子の環境中での閾値を調べる。その基準値が定められた場所で、その疾病の発生頻度が抑制されているか検討する。	発表終了後、プレゼンテーション内容について討論した点を修正しまとめなおす。	60

令和3年度

科目名	建築構造計画特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員	濱尾 博文			
開講期	前期			
授業概要	大学4年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。			
達成目標	大学4年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。			
受講資格	大学院修士課程	成績評価 方法	試験100%	
教科書	特に指定しない。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「建築構造計画とは」建築設計との位置づけと社会的役割		0
2	構造計算モデル1	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール		0
3	構造計算モデル2	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方		0
4	荷重と変形1	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント		0
5	荷重と変形2	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力		0
6	荷重と変形3	やや複雑な架構モデルの応力の求め方		0
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方		0
8	応用解析1	解析モデルの入力の方法		0
9	応用解析2	モデルの応力解析と結果の検証		0
10	応用解析3	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証		0
11	断面算定1	応力度、断面に関する数値（断面2次モーメント）		0
12	断面算定2	応力度、断面に関する数値（断面係数）		0
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ		0
14	たわみ	たわみが起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係		0
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方		0

<b>科目名</b>	実務実習Ⅰ（インターンシップ）	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 6単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建築設計事務所等において建築設計及び工事監理を体験しつつ一連の業務内容を理解し、これらの実務を建築士の指導下において実習することで、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。		
<b>達成目標</b>	建築設計及び工事管理について、一連の業務内容を理解していること。建築士の指導下で、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけていること。		
<b>受講資格</b>	人間生活学専攻修士課程	<b>成績評価 方法</b>	成績は、指定された実習報告書（実習内容とその成果や考察を記したもの）及び実習成果の報告会における発表内容と質疑応答によって総合的に評価する。なお、成績評価の配分は応用力40%、発想力・活用力60%とする。
<b>教科書</b>	必要な資料は適宜配布する。		
<b>参考書</b>	必要な書籍や指針などは適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	学生が建築士事務所に出向き、一級建築士の指導下において設計や工事監理に関わる業務の補助を行う。☑ 実習期間中に実習日報を適宜提出し、実習終了後に実習報告書を提出して実習成果の報告会をおこなうこと☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☑ 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画	<p>実習先にて一級建築士の指導下で建築設計と工事監理に関する実務訓練を行いつつ、その実務に必要な学習を行う。☑</p> <p>☑</p> <p>学修時間は実習先の事務所における勤務時間内にて、計240時間の実習を行い、実習報告書の作成と発表を含めて270時間とする。実習内容の時間配分は概ね次の通りとする。実習の時期は、1年次の夏季及び春季休業の期間に行うことを原則とするが、実習先の業務の都合等により変更できる。☑</p> <p>☑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画図面の作成実習（模型作成等を含む）：70～90時間☑</li> <li>・実習図面の作成実習（図面修正等を含む）：120～140時間☑</li> <li>・施工現場の工事監理実習：20～40時間 計230時間☑</li> <li>・実習報告書の作成と報告会：別途学内にて実施 総計240時間☑</li> </ul>	実習報告書等の作成	60

<b>科目名</b>	科学的衣生活特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	瀬谷 真理子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>快適な衣生活を営んでいくために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、豊かな衣生活とはどのようなものか理解する。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養う。生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えることは、SDGsの目指す方向と重なるものがあり、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え、実践していく力を養う。また、福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。</p> <p>実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得☑</p> <p>位置づけ・水準 ☑ ☑</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1. 被服の持つ機能・役割について理解し、快適な衣生活とはどうあるべきか考えることができる。☑</p> <p>2. 被服材料の性質について理解し、手入れや保管について理解できる。</p> <p>3. 豊かな衣生活を営むためのあり方について、科学的な視点で考え理解を深めることができる。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的な評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：</p>		
<b>受講資格</b>	上記対象学生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート・ノート/授業態度：30点%、②期末レポート：20%、③小テスト：50% として①から③の総合評価で60%以上を合格とする。
<b>教科書</b>	「消費者の視点からの衣生活概論」菅井清美・諸岡晴美 編著 井上書院		
<b>参考書</b>	「ビジュアル衣生活論」建帛社、「衣生活概論」矢部章彦ほか		
<b>学生への要望</b>	衣生活における現状と課題を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
<b>オフィスタイム</b>	被服学研究室☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①本講義の概要や目標、進め方や評価方法などについて説明する。 ②講義の事前学習や事後学習の必要性を説明する。	本日の授業内容をまとめ、問題点をピックアップする。	60
2	被服着用品目的と被服の機能～衣生活文化の変遷～	被服の着用品目的と機能は、時代、社会、文化の変遷に伴いながら変化する。被服の起源や被服の着用品目的の変遷を学び、現在の衣生活について問題点を抽出する。特に、被服着用の主要な3つの目的（①生理物理的、②心理的、③社会的）を文化的変化、価値観・意識の変化の視点から考察し、今後の衣生活を展望する。	本日の講義の復習をする。自分自身の衣生活における問題点を抽出し、次回発表の準備をする。	60
3	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と特徴を、被服に必要な機能との関連で理解を深める。さらに、年々進歩している新機能素材の例や素材の染色と加工について、映像や実物を観察しながら理解を深める。	本日の講義の復習をする。また、自分自身の被服の素材を確認し、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
4	被服の選択・購入の現状と課題（市場調査）	被服を選択・購入する際に参考とする被服の表示（素材、取扱い絵表示、サイズ、デメリット表示など）についてその種類を調べ、生活者視点での問題点（わかりやすさや見やすさ、など）と課題を考える。また、市場調査を実施して理解を深める。	本日の講義の復習をする。また、市場調査の結果をレポートにまとめる。	60
5	被服の着用による問題点と課題	被服の着用方法の変化、被服着用による汚れの種類と付着メカニズムを科学的に理解する。	本日の講義の復習をする。また、自分自身の着用時の問題点をピックアップし、レポートにまとめる。	60
6	被服の管理・手入れ方法（市場調査）	被服に付着した汚れの除去方法について、素材・形、染色などの被洗物の特徴に応じた適切な方法を理解する。家庭およびクリーニング店での汚れの除去方法の特徴と違いや家庭洗濯に用いられる市販洗剤の種類と特徴、使用方法、表示の見方などを調べ、生活者視点から問題点を抽出する。また、市場調査を実施して理解を深める。	本日の講義を復習する。自宅にある洗剤類や洗濯機の種類を調査確認する。また、市場調査の結果をレポートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	被服の保管の問題点と課題 (市場調査)	現在の被服の保管実態を調査し、問題点・課題を抽出する。市販されている防虫剤の種類と特徴を把握し、現時点での望ましい保管方法をまとめる。 また、市場調査で実際の商品を見て理解を深める。	本日の講義を復習する。また、自分自身の衣服の保管実態を把握する。	90
8	暮らしの中の衣生活①	被服の選択・購入、着用、手入れ・保管、廃棄という被服のライフサイクルにおいて、エネルギーと資源の消費（インプット）、炭酸ガスや廃棄物の排出（アウトプット）を評価するライフサイクルアセスメント（LCA）の考え方に基づいて、衣生活における環境負荷を考察する。	本日の講義を復習する。また、自分自身の衣生活をLCA的に見た場合の問題点を考察する。	60
9	暮らしの中の衣生活②	衣生活を営むことに伴う地球環境負荷影響を理解し、より環境負荷低減をめざした生活とはどのような生活であるかを考察する。	本日の講義を復習する。次回のテーマとする自分自身の被服の実態調査を行う。	120
10	暮らしの中の衣生活③	被服の死蔵（1年間着用していない状態）実態調査や被服の廃棄実態調査結果を参考として、環境に配慮した衣生活を5R（Reduction, Reuse, Recycle, Repair, Remake）の視点から考察するとともに今後の課題を抽出する。	本日の講義を復習する。自分自身の衣生活実態の問題点をピックアップし、よりよい方法を考え、レポートにまとめる。	60
11	SDGsの視点からの衣生活	SDGsについて理解し、衣生活において必要とされる水資源（植物繊維の成長、染色、洗濯水）について、地球上での循環、汚濁と規制、使用実態、上水・下水処理場の役割、などを調査し、理解を深める。	本日の講義を復習する。SDGsの視点でレポート作成を行う。	60
12	事例研究①	被服の事例として、取り上げる現代的課題について、その機能について学び、生活者の視点で、環境負荷低減の視点から考察する。	本日の講義を復習する。レポート作成を行う。	60
13	事例研究②	衣生活環境を中心とした現代的課題について、その発生原因と対策、問題点について考察する。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義を復習する。期末レポート対応を実施する。	120
14	これからの衣生活	衣生活における安全と安心の考え方を学び、現在の衣生活における課題とその解決方法を考える。	本日の講義を復習する。期末レポート対応を実施する。	120
15	まとめ	衣生活を巡る問題は、衣生活に限らず生活全般に共通する問題であること、生活者の視点での考察が重要であることを理解する。	本日の講義を復習する。	60

令和3年度

科目名	健康生活特別研究	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択	
担当教員	紺野 信弘			
開講期	通年			
授業概要	健康生活特別研究の授業は「大学院博士課程」で開講しているので、論文執筆に必要な関連論文の講読と解説。			
達成目標	学術論文の執筆および投稿			
受講資格	大学院博士課程	成績評価 方法	レポート	
教科書	特にありません。			
参考書	特にありません。			
学生への要望	学術論文執筆できるようにする。			
オフィスタイム	木曜日IVコマ			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
2	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
3	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
4	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
5	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
6	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
7	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
8	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
9	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
10	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
11	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
12	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
13	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
14	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
15	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
16	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
17	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
18	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
19	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
20	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
21	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
22	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
23	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
24	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
25	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
26	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
27	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
28	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
29	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60
30	論文の講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文について常時考える	60

科目名	家政学原論特論		対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 必修
担当教員	影山 彌			
開講期	前期			
授業概要	故関口富左名譽学園長が提唱された、「新しい家政学のパラダイム」について、現代における学問観、科学観及び家政学原論を通して、その今日的意味を検証するとともに、その発展的展開の可能性を探る。			
達成目標	本学の「新しい家政学のパラダイム」のもつ、現在および将来の学問としての家政学に対する可能性について認識できること。			
受講資格	大学院 人間生活学研究科人間生活学専攻博士課程1年	成績評価 方法	発言力 (20%) レポート (80%)	
教科書	関口富左『家政哲学』家政教育社1977、関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社			
参考書	O.F.ボルノー著、大塚恵一他訳『人間と空間』セリが書房1978 G.バシュラール著、岩村行雄訳『空間の詩学』思潮社1969 サン＝テグジュペリ著、山崎庸一郎訳『城砦』みすず書房1976			
学生への要望	参考文献を事前に読むことに努める。			
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み (12:00~12:50) ☒ 創学館4階N0.2研究室☒			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	「家政学の新しいパラダイムについてⅠ」	1984年、オスロー大学で開催された国際家政学会で発表した、「家政学の新しいパラダイムⅠ」、すなわち新しい家政学の理念論について解説する。	講義資料について復習する。	60
2	「家政学の新しいパラダイムについてⅡ」	新しい家政学の構想における、独自の方法論の探求（構築）について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	「家政学の新しいパラダイムについてⅢ」	新しい家政学の構想における、公的政策の領域設定について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	『家政哲学』の理解（1）	関口富左編著『家政哲学』第三章人間守護の家政学を通して、「家政学の新しいパラダイムⅠ」の家政学の理念論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	『家政哲学』の理解（2）	『家政哲学』第三章の理解を通して、「家政学の新しいパラダイムⅡ」の独自の方法論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	『家政哲学』の理解（3）	『家政哲学』第六章人間守護と社会を通して、「家政学の新しいパラダイムⅢ」の公的政策の領域を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	サン＝テグジュペリ『城砦』の理解	『家政哲学』の思想の基盤の一つとなっている、サン＝テグジュペリにおける「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	G.バシュラール『空間の詩学』の理解	G.バシュラールにおける「住むこと」の哲学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
9	O.F.ボルノー『人間と空間』の理解	『家政哲学』の大きな哲学的基盤となっている、O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	O.F.ボルノー「人間とそれの家」の理解	O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
11	M.ハイデガー『建てる、住む、学ぶ』の理解	M.ハイデガー 晩年の思想の転換といわれる、彼の「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	関口富左編著『人間守護の家政学』の理解（1）	『人間守護の家政学』第2部家政学原論を通して、本学家政学の理念、「人間守護」、目的を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	『人間守護の家政学』の理解（2）	第2部家政学原論を通して、本学家政学の定義・対象・方法を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	『人間守護の家政学』の理解（3）	第2部家政学原論を通して、本学家政学の独自性・体系構造・行為・技術などを理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学のパラダイムの検証	本学家政学のパラダイムが妥当性を有するかどうか、現代の科学編、学問編から検証する。	講義資料について予習・復習する。	60

<b>科目名</b>	空間環境計画学特別研究	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	空間環境計画学特論に連動させ、院生個々人の研究の新規性、学術性、家政学的効果に関する目標を明確にするため、俯瞰的視点から関連する応用対象分野の評論や最新の研究成果に基づく自己学習、教員からの講義、院生・教員の共同論考、小論文の整理体系化、さらには関連するシンポジウム等への参加など、効果的と考えられる多様な方法を広範囲に活用し、博士論文作成の発展的展開を図る。小論文は討議によるフィードバックを行います。		
<b>達成目標</b>	自立して研究を行うための専攻分野に関する最先端の知識と周辺領域に関する豊かな学識を十分に持ち合わせていること。また自らの研究の意義や新規性を明確化させていること。☑ 単位認定最低基準：「授業内容の理解度が80%以上であり、独立して研究を進められる基礎を有していること」		
<b>受講資格</b>	博士（後期）課程	<b>成績評価 方法</b>	プレゼンテーション20%、討論30%、レポート提出20%、小論文30%で評価する。
<b>教科書</b>	特に使用しない。		
<b>参考書</b>	必要に応じて、文献や関連資料を指定する。		
<b>学生への要望</b>	問題解決にあたって、すでに身に付けている知識・技能を適用するだけでなく、研究の諸過程で出現した現象や結果に対する深い洞察力、考察力、応用力を自ら養成することを心がけること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日IV限・V限 第1住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	講義の進め方、講義内容の説明を行い導入とする。	講義内容の復習	60
2	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	90
3	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
4	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理	60
5	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	論点整理と小論文作成	90
6	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
7	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
8	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義・討議）	教員のコメントによる再整理	60
9	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
10	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
11	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
12	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
13	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
14	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
15	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
16	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
17	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
18	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
19	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
20	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義・討論）	討議結果による問題点の整理	60
21	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
23	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
24	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
25	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
26	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
27	プレゼンテーション	プレゼンテーション方法の調査（教員からの講義）	講義内容の整理とプレゼンテーション準備	90
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からのプレゼンテーションと教員との討議）	指摘に基づく再整理	60
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からの2回目のプレゼンテーションと教員との討議）	総合評価を受けるための面談準備	60
30	総合評価	研究内容の総合評価（討議・教員よりの評価）	指摘に基づくまとめ	60